

## 「バス危機突破 総決起大会」の開催について

日本バス協会は、令和4年11月10日(木)午後、自由民主党本部8階ホールにおいて「バス危機突破 総決起大会」を開催しました。

コロナ禍の長期化による輸送需要の大幅な減少、さらには燃油価格の高騰により、バス事業の経営が危機的な状況にあることを強く訴え、固定資産税減免などバス事業存続のための支援を求めました。

当日は、全国からバス業界約200名が集結するとともに、バス議員連盟を中心に90名を超える自民党国会議員の先生方や、国土交通省幹部の皆様にもお越しいただきました。

清水会長は挨拶で、総決起大会の開催目的を「今の危機感を伝えるため」とし、大会の決議として、「バス事業者の固定資産税減免の実現」、「全国旅行支援をあと3年は実施」、「EVバス補助を大幅増額」の3項目を掲げ、「先生方のお力をお借りして何とか実現したい。」と訴えました。



(清水会長挨拶)



(萩生田政務調査会長ご挨拶)

御来賓でお越しいただいた自民党政務調査会長の萩生田光一先生からは、「今回のバス総決起大会は自民党本部で初めて行われるものであり、業界の危機感の表れと受け止めている。また、このままでは公共交通の持続可能性がない、ということは党内でも共有されている。力を合わせて頑張ってみましょう。」とのご挨拶をいただきました。

また、バス議員連盟会長の逢沢一郎先生からは、「バスの危機的な状況は、今更申し上げるまでもない。今回決議する三つの要望を議連と事業者が一丸となって実現していきたい」と、さらには国土交通副大臣の豊田俊郎先生からは、「バスは地域の公共交通を担う重要な存在

であるので、その経営の下支えが必要。今回の三つの要望に応えていきたい。」と、それぞれご挨拶をいただきました。



(バス議員連盟 逢沢会長ご挨拶)



(豊田副大臣ご挨拶)

バス議員連盟幹事長盛山正仁先生から決議内容に関する現況説明が行われた後、出席された国会議員の先生方お一人お一人から力強いお言葉をいただき、要望事項3項目の大会決議がバス議員連盟事務局長武井俊輔先生から提案され、満場一致で採択されました。

最後に清水会長の発声によるガンバローコールで総決起大会を終了しました。



(清水会長によるガンバローコール)